

令和元年度（2019年度） 歯科保健部会 議事録要旨

日時：令和元年（2019年）8月23日（金）10時～11時半

場所：ウエルパークまもと3階 すこやかホール

出席：11名

一安 勝、工藤 壽子、佐藤 成美、澤村 裕美子、谷口 千代子、中島 花江、中山 秀樹、原山 照美、平川 恵子、本田 一幸、宮本 格尚（五十音順・敬称略）

事務局：健康づくり推進課、障がい保健福祉課、子ども政策課、保育幼稚園課、健康教育課、高齢福祉課、医療政策課、国保年金課、子ども発達支援センター、各区保健子ども課

次第 1 開会

- 2 挨拶 原口衛生部長
中山秀樹委員（部会長）

- 3 議題 1. 第3次熊本市歯科保健基本計画の進捗について
(1) 胎児期・妊娠期から中高生期のむし歯予防対策について
(2) 成人期からのむし歯や歯周病対策について
2. 歯科口腔保健を推進するための社会環境の整備について

4 閉会

資料 第3次熊本市歯科保健基本計画の進捗について

- 参考資料 1 第3次熊本市歯科保健基本計画 歯科概要版（平成31年3月改訂版）
2 第3次熊本市歯科保健基本計画における成果指標の中間評価と最終目標値
3 歯っぴー39（サンキュー）チャレンジリーフレット
4 無料歯科健診券付き啓発カード（～歯から始めよう～Happy life）

- 追加資料 県から情報提供 1 大切なお子様の口の健康を守るために
2 妊娠中、赤ちゃんの口の健康のために

○事務局からの説明についての質疑やご意見は以下のとおり

議題1. 第3次熊本市歯科保健基本計画の進捗

(1) 胎児期・妊娠期から中高生期のむし歯予防対策について

○子どものむし歯・不正咬合について

【宮本委員（歯科医師会）】

- ・むし歯の有病者率は県も高いが、熊本市も政令指定都市では高い。ただ、県よりは数値はいい。県を含めて熊本がなぜむし歯が多いのかという要因分析を進めてほしい。
- ・まず、むし歯にしないということが重要。関係団体での啓発や、歯科衛生士会や保育園・幼稚園でのポスター掲示等の啓発の取組を引き続き協力をお願いしたい。
- ・小学校のフッ化物洗口については、やっと全校実施に近づくために、動きが活発になってきた印象がある。すぐに結果は出ないが継続し実施していただきたい。
- ・3歳児の不正咬合が増えているということだが、すぐに改善することは難しい項目だと思う。

【中山部会長】

むし歯が多い要因として考えられるものはあるか。

↓

【事務局】3 歳児歯科健診結果と問診よりむし歯の発生の有無との関連について、統計的検討を行った結果、とむし歯の罹患率が高い傾向であった。

- ① 1 歳 6 か月健診時健診の結果から、「間食 3 回以上」
 - ② 3 歳児健診の結果から、「間食時間を決めていない」
 - ③ 両親もしくはどちらかが喫煙している（直接の関連ではないが、保護者の生活習慣の確立ができていないことが、子どもの生活習慣の確立に関連していないと思われる。）
- 以上となったが、他都市についても課題は同様である。

【佐藤委員（歯科衛生士会）】

- ・子どものむし歯が政令指定都市ワースト 1 ではあるが、少しずつ改善しているため、取組みの継続が大事である。
- ・不正咬合は、永久歯になってくると数値が変わってくると思う。しっかり噛むことで、不正咬合を予防することに影響する。歯みがきだけでなく、食育も大切である。むし歯は、本人だけではなく家庭環境が一番結びついている。間食時間とともに、間食は甘いものを食べるという認識があるため、間食に何を食べるかという啓発も必要である。子ども食堂の方から、噛まなくなったと聞く。
- ・夜遅くまで開いている店を利用する生活環境についても、影響がある。
- ・歯科受診については、小児歯科でなくてもよい。家族で通えるような環境を整えることが必要である。

〇フッ化物洗口について

【一安委員（8020 推進員）】

- ・フッ化物洗口を小学校で、シルバー人材センターや 8020 推進員が受託して実施している。8020 推進員で対応できれば一番いいのだが、8020 推進員が多いところは良いが、会員が少ないところは取り組みが難しい。各校区で会員を増やして、8020 推進員で対応していくことを、今の目標にしている。
- ・フッ化物洗口は、全学年で実施の学校もあるが、1.2 年生を対象に実施している。保育園でも実施していることが学校につながるように、熊本市においても、県と同様に、学校で基本的に実施していただくようお願いしたい。

【中山部会長】

- ・学校主導の取組は、学校の立場もあり、難しい面もあると考えている。
- ・フッ化物洗口を推進するために、学校歯科医と連携を図り、啓発できることもあるのではないかと。
- ・我々が議論しているのは、3 歳児でのむし歯保有率の減少であるが、その兄弟姉妹がいる学校での学童期・保護者にアプローチすることで対策になる。

【宮本委員（歯科医師会）】

- ・小学校低学年のうちには歯科受診をするが、高学年になると、クラブ活動等で受診がおろそかになり、重症化して受診する傾向がある。歯は一旦悪くなると元に戻らないため、早く受診してほしい。
- ・学校保健委員会で、学校歯科医の立場で参加し、啓発の機会と考えているため、歯科医師会としては、学校歯科医の先生方へ学校保健委員会への参加を積極的に呼び掛けていることから、学校から出席の場を作っていただきたい。
- ・また、園についても園歯科医に呼びかけして講話等の機会を設けていただき、啓発していきたい。

【原山委員（小学校校長会）】

- ・フッ化物洗口に関しては、学校は県が実施しているが、市ができていないのご指摘があった。学校現場の状況で違ってくる。市は他の市町村と比較すると大規模校が多く、実施をする難しさがある。フッ化物洗口の有効性は認識しているが、学校としては、場所の提供をするという立場である。今後も学校主体は難しいため、行政と連携してやっていきたい。
- ・北区は 8020 推進員が少なく、中央区は多く学校にも関わってくださっているが、校区によって差がある。
- ・12 歳児の一人平均むし歯数が 1 本を切ることを目標に推進してきた。今回 1 本を切ったことで、少しずつではあるが、着実に推進し効果を上げている。
- ・歯科受診についても学校としてずっと児童や保護者へ受診勧奨しているが、進んでいかないことも事実である。家庭の格差があり、大きな虐待とまではいかないが、ネグレクト的な状況の子どものむし歯を持ったまま、放置されていることもある。
- ・学校の格差もあり、現在フッ化物洗口を実施していない学校でも、ほとんどむし歯がない学校がある。家庭の歯についての意識が高いと、むし歯がない状況である。経済的に厳しい家庭では難しく、家庭環境、経済格差が子どもの歯にも影響している現状がある。
- ・歯に関しては成果が分かりやすいこともあるため、取り組んでいくことが重要である。1.2 年生のフッ化物洗口に加え、他にも何かプラスで取り組んでいきたい。
- ・学校歯科医や薬剤師会の先生方とはかなり連携し、学期に 1 回程開催する学校保健委員会には出席をしてもらっているが、学校によって差がある。テーマを決めて、全校で実施をしている学校もある。ぜひ学校で助言をしていただきたい。

【本田委員（保育園連盟）】

- ・園でのフッ化物洗口について、園によって理解度が違う。実施するまでの難しさがある。費用の問題があったが、無料化になったことでその課題はクリアした。人材不足があるなかで、職員の手間がかかり、フッ化物洗口まで取り組めない状況がある。
実施園を増やすためには、園長先生を説得すること、また人材不足を解消するための手立てがあるとよいのではないかと。
- ・保育料無償化については、フッ化物洗口の取組と直接的には関係ないが、事務量が増えることで余裕がないというのが理由にあると思う。

【中島委員（市民代表）】

- ・運動会などで、小さい子どもさんに、ダラダラとお菓子を食べさせていることが多く、お弁当の時間に何を食べさせるんだろうと思うことがある。
- ・子育てサークルに来ている保護者は、むし歯菌は移る等知識を持っており、実行できている。参加していない保護者への啓発が必要であると考え。また、祖父母世代への指導も必要である。
- ・春日校区はフッ化物洗口の実施について、ありがたいことに 8020 推進員が前向きで楽しみされ、多くの方の協力を得られる状況である。また、地域で下校時の見守りをしており、子どもとの距離が近く、そういった活動がお互いの心の距離を縮めているように思う。9 月からのフッ化物洗口開始を楽しみにしている。

○食を通してのむし歯予防について

【平川委員（食生活改善推進員）】

- ・食生活改善推進員は 育児サークルや親子料理教室など、市の栄養士がたてた献立をもとに啓発をしている。その際、起床時間や、食事の時間、一口 30 回噛むことなど、生活習慣を含めて献立等を紹介している。

【澤村委員（栄養士会）】

- ・規則正しい生活はむし歯予防につながる。見落としがちなのが、飲み物でスポーツドリンクである。飲むということが唾液の分泌を起こさない。運動時に飲む機会があり、熱中症予防に電解質の補給には最適であるが、時間を決めて飲むということが難しく、ダラダラ飲むことで、むし歯を起こさせる可能性がある。
- ・一般的な予防として免疫力を高めることでむし歯菌を抑制する力があり、むし歯などのリスクを低くする。歯を丈夫にする食品としては、カルシウム、エナメル質を強化するビタミン類、口腔内の殺菌をする唾液を沢山出すには、酸味のあるものが必要。歯の表面を掃除したり、顎の力を強くするところでは、食物繊維が必要。また、アルカリ性食品は、酸性に傾いた口の中を中和させる働きがある。歯に良い飲み物としては、牛乳、カテキンの多いお茶・紅茶を利用することは良いことではないかと思う。直接市民へ啓発する機会はないが、栄養の講話等に盛り込んで啓発していきたい。

【中山部会長】

歯っぴー39 チャレンジをベースに、活動を展開していく。

(2) 成人期からのむし歯や歯周病対策について

○歯周病検診・オーラルフレイル（口腔機能低下）について

【宮本委員（歯科医師会）】

- ・歯周病検診に向けた準備を行政と進めてきた。節目検診が熊本市の協力のおかげで、実施する運びとなった。40歳・60歳の働き盛りの世代に対して、歯周病検診ができることは非常に有効であると思う。歯周病は日本人の8割はあると言われているため、歯科医師会としてもバックアップしていきたい。
- ・8020達成の高齢化に伴う課題がある。8020で、いわゆる歯がたくさん残ったままで寝たきりになると、また問題である。歯を残すだけではなく、全身の健康状態も重要である。
- ・フッ素の利用は子どもと思われがちだが、高齢期になると歯ぐきが下がり、そこからむし歯にもなるため、高齢者も積極的に使用してほしい。
- ・現在フレイルが問題になっている。全身のフレイルの前に、オーラルフレイルいわゆる口腔のフレイルがあると言われている。口から弱って、それから全身が弱る。口の段階で発見し、対策をとると全身の機能低下を防ぐ、又は元に戻すことができる。この機会にオーラルフレイルという言葉覚えていただき、今後社会的問題になることが予想されているため、歯科医師会はもちろん、関係団体と協力していくことが重要であると思っているところである。

【中山部会長】

- ・口のフレイルについては、「口腔機能低下症」という病名であり、しっかりとした基準を設け、啓発に取り組んでいる。医科ではメタボという言葉があり、浸透していることが成功である。このように、口の健康についてのキャッチフレーズとして「フレイル」や「口腔機能低下症」という言葉を、意味も含めて市民に浸透していきたいと考えている。
- ・指標13の20歳代における歯肉に炎症所見を有する者は、大幅に上昇している。データ収集方法が変わっているとみることが出来る。単純に評価できないと考えており、そこを留意したうえで結果を判断してほしい。ただし成人期に至るまでのデータが、少しずつ改善してきていることを見れば、若干いいという見方もある。

【佐藤委員（歯科衛生士会）】

- ・生活支援プログラムにおいて、企業の方への指導の際、学生の時以来歯科受診をしたことがなく、仕事していると時間が取れないという方も多い。無料歯科健診券があると、きっかけになるのでは、がん検診についても、安く受けられると受診しようかなということになる。また、節目の40・60歳で歯科検診といっ

た機会があると、受診するきっかけになると思う。

- ・高齢期では、健康寿命の説明する時に歯科では、「健口」を使うことがある。健康な歯が残っていることが大切。地域ケア会議でも説明するが、奥歯が無くて、かみ合わせがうまくいっていない人が多く見受けられ、十分咀嚼できない。また、奥歯が無いと食いしばれないため、転倒のリスクも高い。よくかむことで、脳への刺激があり、認知症予防にもつながる。
- ・若いうちからのむし歯、歯周病予防をしっかりとしないといけない。オーラルフレイルや口腔機能低下という言葉を出して、普及啓発し、介護予防の視点での取組を広げていきたい。

【工藤委員（薬剤師会）】

- ・薬剤師会の歯科の取り組みとしては、学校における薬物乱用に啓発を行っている。
- ・薬の副作用から歯肉肥厚があり、その影響での口腔機能低下があることについて薬局を通じて、患者さんに伝えるようにしている。
- ・口腔機能低下については、口腔衛生が悪いと誤嚥性肺炎があり、重症化・死亡原因にもなっている。誤嚥性肺炎の予防のために、食べる機能を保つことが重要で、口腔内の衛生管理が重要。薬局内でも口腔内用のペーストを伝えている。

【谷口委員（包括支援センター）】

- ・自立支援型地域ケア会議をささえりあにおいて、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師、栄養士等の各専門職の方から助言いただいて実施している。ケアマネージャーは、なかなか口の中については見ることが少なく、ケアマネージャーへの意識改革になっていると感じている。栄養状態が悪くなることで、歯肉炎ができたりと口腔内も変化し、また、痩せてきて入れ歯が合わなくなったり、全身の筋力・体力の低下が口からつながっていることを理解し始めている。
- ・「オーラルフレイル」や「口腔機能低下症」の言葉を使っていただくと、高齢者の理解が進む。また、高齢者の方はテレビをよく見ているため、誤嚥性肺炎の予防など、嚥下訓練法について質問を受けたりする機会が増える。口の健康もメディアをつかった広報も有効であると思う。
- ・高齢者サロンを8020推進員等の地域の方と一緒に、子どもから啓発できるといいなと感じている。
- ・介護予防について力を入れて取組を進め、通所の利用者に対して、口腔ケアや栄養について指導している。すべて関係するため口腔ケアや栄養について意識づけて、高齢者が元気でいられるように、関係機関が連携を深めていくことが必要であると感じている。

【中山部会長】

- ・情報提供・啓発が大事であると改めて感じている。

○口腔状況の把握・歯科健診について

【宮本委員（歯科医師会）】

- ・ケアマネージャーは、最初は医療系の方が多かったが、現在は福祉系の方が多く、実は口の中を見れていないことが多いようだ。口腔清掃ができて、噛んでいると本人は言われるが、実際は入れ歯が入っていないなどの現状を歯科医師会として把握したため、今年の1月に、ささえりあ等を対象に「介護支援専門員の連携セミナー」を開催し、各ささえりあに担当を決め口の中の何を見るか等「口の中の見かた」の研修を行った。高齢者に対してケアマネージャーの普段のかかわりのなかで、最低限のスキルを身につけていただいて、一歩踏み込んだ口腔の管理が重要であると思う。今後も継続して開催する。
- ・また、職員の年1回の健康診断で、全身の検診はするが歯科検診が入っていない。人間ドックにおいても日赤くらいしか実施されていない。口は全身の健康に影響するため、ぜひ口腔内の健診を受けるという仕組みづくりも必要ではないか。

○高齢者の口の体操について

【中島委員（市民代表）】

- ・地域で実施している「くまもと元気くらぶ」での「いきいき百歳体操」においても、歯科が入っていない。一緒に口腔の体操も実施したらもっといいのではないか。

【谷口委員（包括支援センター）】

- ・サロンによっては、歯っぴー噛み噛み体操等の実施もしているサロンや、頭の体操「しゃきしゃき百歳体操」をされているところもある。

○噛むことの重要性について

【佐藤委員（歯科衛生士会）】

- ・奥歯で噛むことがとても大事で、それができないと、窒息を起こすリスクが高まる。窒息で亡くなる方は、交通事故と同じくらい多い。しっかりかみ砕いて食塊（食べ物の塊）ができないと飲み込みにくくなってしまふ。嚥下機能の低下の前に、食塊ができないこともあるため、しっかり噛むことの指導を続けて欲しい。
- ・口腔内を診る機会や知識がない。歯科衛生士会において、だれでも口腔内をチェックできる媒体を作っていきたいと思っている。

【中山部会長】

- ・窒息で亡くなる方は、交通事故より多いと言われており、今、フォーカスが当たっている。ネットでも検索できる。しっかり咀嚼して食塊をつくり嚥下することは非常に大切。熊大病院の窒息リスクが高い入院患者に対して、医療安全の観点からも、チェックを入れ指導をする方向であることを情報提供する。

議題 2 歯科口腔保健を推進するための社会環境の整備について

○8020 推進員について

【原山委員（小学校校長会）】

地域によって、8020 推進員さんの数に差があるのはなぜか？

↓

【事務局】ボランティアに対する意識が地域によって差がある。中央区は 8020 以外にも、もともとボランティアが多い。また、8020 推進員が新しい 8020 推進員を紹介されるため、多い地域はさらに増える。

現役で仕事をしている方は、時間の余裕がないといった理由が考えられる。

今年度は 77 名の方を育成する予定である。

【一安委員（8020 推進員）】

- ・育成数は増加しているが、熊本市 8020 健康づくりの会の登録数は増えていない。人を増やさなければならぬと思う。8020 推進員をしている人は、民生員や食生活推進員等を兼務の方が多く、そういう方からも紹介をいただいている。東区においては、10 名程度と講習を受ける方が少ない。
- ・今、自治会・社会福祉協議会などの組織も後継者不足は課題であり、定年が 65 歳と延長し、仕事を続けている方が多いことも影響していると思う。
- ・8020 推進員のみでやっている方を増やしていけたらよいが、なかなか難しい。推進員になる方が 60 代後半以上と高齢者が多いのも課題である。

【平川委員（食生活改善推進員）】

- ・8020 健康づくりの会の会員が、いつの間にかやめられている方がいる。フォローはどうされているか。推進員として育成された方に対して、積極的に声かけし、参加してもらうのどうか。食生活改善推進員は、強制的に声かけをしている。8020 推進員は行政が関わっているが、遠慮しないで声をかけたらいいのではと思っている。声がかからないので、活動しなくてもいいかと思ってやめられている方がいる。

【一安委員（8020 推進員）】

- ・会員に対して遠慮しているつもりはないが、会費を納めて会に入ってもらうため、人数が限られてくるようだ。ボランティアしている人は、経済的に困っている人は少ない。高齢で活動できなくなる現実もある。

【原山委員（小学校校長会）】

991 人の育成の中で、会員は何人ですか



【事務局】 323 人と、育成者の 3 分の 1 程度である。

【中山部会長】

ボランティアとして参加された回数を把握したり、8020 推進員数を校区ごとにマッピングしたりすることで、視覚的に議論がより深まるのではないかと。

○歯科健診（障がい児・口腔がん）について

【宮本委員（歯科医師会）】

- ・障がい児（者）に対して歯科診療を行う口腔保健センターは、今年の 4 月から県の英断で、予算をつけていただき常勤の歯科医師・歯科衛生士を雇うことができ、充実してきている。会員の歯科医院においても対応ができるよう調査をし、会のホームページで公開しているが、個人の歯科医院ではできる範囲が限られているため、すみ分けが大事。
- ・障がい児（者）については、むし歯になるととても大変なため、むし歯にしないということが大前提である。当医院においては、毎月受診していただいて、予防を徹底している。皆さんの周りの方にも、むし歯になる前に歯科医院を受診していただくことを啓発していただきたい。
- ・今、堀ちえみさんの舌癌の影響で、口腔がんの照介で熊大がパンク状態と聞いている。市民がまずは地域のかかりつけの歯科医を受診するようにしたい。
- ・いずれにしてもすみ分けが大切であり、歯科医会としても徹底したい。

○8020 推進員等の活動におけるインセンティブについて

【谷口委員（包括支援センター）】

- ・介護予防ボランティアが、サロン・元気くらぶや施設の支援を 2 時間程、実施したらスタンプを付与して、年間最高 5,000 円のインセンティブを受ける制度があるが、8020 推進員や、食改がサロンや元気くらぶで支援をした時には、活用できないのか。



【高齢福祉課】市で育成した介護予防サポーターが施設の活動で換金する事業である。今年度からサロン等介護予防の活動に対してもポイントを付与している。8020 や食改の活動でも同様の仕組みが構築できるか課内で検討していきたい。

【平川委員（食生活改善推進員）】

私の校区では、民生委員・児童委員協議会等で 8020 推進員や、食生活改善推進員の立ち上げを年 1 回はできるようにしている。

4、その他

○市民病院開院について

【中山部会長】

熊本市民病院が10月に新天地で開院される。多くの診療科もあり、障がい児（者）についても市民の病院として活用してほしい。

○健康くまもと 21 推進会議の案内

【事務局】

開催期日：11月29日（金）14時～16時 ウェルパルクまもと1階大会議室

—閉会—